

気軽に散歩      (千葉県・銚子)

銚子市は千葉県の北東部に位置する人口約6万7千人の町である。沖合では黒潮と親潮がぶつかり、豊富な海の幸をもたらしている。銚子漁港は日本屈指の年間水揚量を誇り、サバ、サンマ、イワシがその大半を占める。

東京からJRで銚子まで約1時間半。銚子駅で下車し、銚子電鉄に乗り換える。銚子電鉄は千葉県最東端を走る、全長約6キロの鉄道。発車すると、窓から風が入ってきて心地良い。車窓からはとうもろこし畑が見えてきた。終点の1つ手前の犬吠駅で下車する。

犬吠駅で降りて少し歩くと、すぐに広大な太平洋が見えた。海に向かってゆっくり歩く。標高20メートルと小高いので、眺めが良い。浜辺を見下ろすと、白い波が次々と打ち寄せていた。

広々とした海に夢中になって歩いているうちに、犬吠埼灯台に着いた。犬吠埼灯台は、イギリス人技師のリチャード・ヘンリー・プラントンの設計で、明治7（1874）年に造られた現役の灯台。高さ31メートルで、19・5海里先まで照らすことができる。

約90段の石段を足音が響く中、頂上を待ち遠しく思いながら上る。上り切ると、目の前に大きなレンズが現れた。その大きさに驚きつつ、外に出てみることに。急に明るくなったのと、風が吹き抜けたのとで、目をつむってしまう。しかし、次の瞬間眼下に広がる青に圧倒される。

いつまでも青い海と白い波を眺めていたい気持ちになりつつも、石段を降りる。続いて、灯台と同じく銚子のランドマークである、銚子ポートタワーに向かうことに。再び銚子電鉄に乗車し、銚子駅方面に戻る。笠上黒生駅で降り、20分ほど歩くと、段々と空気に潮の香りが混ざってきた。それと同時に、ガラス張りのタワーが見えてきた。

エレベーターで高さ約47メートルの展望室に上ると、銚子漁港の魚市場や、停泊中の漁船が見える。また、展望室をぐるりと歩くと、利根川の河口や銚子の街並みも一望できる。

最後に、タワー隣のウオッセ21に行ってみることに。エレベーターでタワーを降り、連絡通路を渡ると、ウオッセ21に入ることができた。ウオッセ21では地元の新鮮な水産物や、全国から集められた魚介類を販売している。中に入ってみると、観光客らしき人が買い物に訪れていた。潮風と広大な太平洋の眺め、新鮮な魚介類を楽しむことができる銚子市内には海水浴場も多いので、これからのシーズンに訪れるにはうってつけだ。

「海員だより」